

お客様各位

キヤノンITソリューションズ株式会社

**DEX Business Server
Medical Gateway
バージョン 2.02リビジョン01 変更内容について**

拝啓 貴社益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は、当社製品に格別なるご愛顧を賜り、誠にありがとうございます。
さて、当社製品「DEX Business Server Medical Gateway」(Ver.2.01-01→Ver.2.02-01)
において、下記のような改修を行いましたのでお知らせ致します。

敬具

記

[強化項目]

以下の機能を強化しました。

[システム全般]

- ◎以下のデータベースを動作対象から除きました。
 - ・ Microsoft SQL Server 2000
 - ・ Microsoft SQL Server 2005
- ◎以下のブラウザに対応しました。
 - ・ Internet Explorer 9
- ◎以下のブラウザを動作対象から除きました。
 - ・ Internet Explorer 6
- ◎AS2 プロトコルで、MDN へのデジタル署名の添付、および暗号化に対応しました。
- ◎AS2 プロトコルで、同じ AS2 識別子を使用して複数クライアントから同時に転送されたデータを受信できるようにしました。
- ◎FDA(Food and Drug Administration)がサポートする (2010 年 2 月 9 日時点) すべての「Center」と「Submission Type」に対応しました。

[マニュアル関連]

- ◎ユーザーズガイドを分冊化し、提供形態を変更しました。
 - ・ 『DEX Business Server Medical Gateway インストールガイド』 (印刷物、PDF ファイル)
 - ・ 『DEX Business Server Medical Gateway ユーザーズガイド』 (PDF ファイル)

[改修項目]

以下の問題点を修正しました。

[インストール関連]

- ・バージョンアップインストールすると、「CJS File Monitor」のログオン アカウントが初期値に戻ってしまう。

[ファイル転送機能関連]

- ・SMTP プロトコルで、MDN の受信中に「DEX Business Server Service」が停止することがある。
- ・AS2 プロトコルで、"Content-Type"ヘッダの micalg 値を設定せずに署名データを送信する。
- ・暗号データ部が複数ブロックに分割されたデータの受信に時間がかかる。

[転送履歴管理機能関連]

- ・転送履歴情報がデータベースに取り込まれていないにもかかわらず、対象のドキュメントが削除されてしまう。
- ・転送履歴として保存する対象にしないフォルダ定義を削除後、転送履歴管理の環境設定画面を表示しようとする、JavaScript エラーが発生する。
- ・コマンドラインから転送履歴情報のデータベースへの保存を実行すると、"DEXParser.exe"でシステムエラーが発生することがある。

[運用管理機能関連]

- ・「DEX Business Server Service」を停止せずに OS をシャットダウンすると、「DEX Business Server Service」を起動できなくなることがある。
- ・接続先種別が「FDA」の AS2 用の通信定義に紐付くファイル定義に受信が定義されていない場合、ファイル定義を変更しようとする、アプリケーションエラーが発生する。
- ・フォルダ一覧画面でファイル一覧の出力を行うと応答がなくなる。
- ・フォルダ連携の設定ツールを起動しても、設定された内容が表示されないことがある。

[保守機能関連]

- ・ファイル転送ログの検索が許可されたユーザで操作しているにもかかわらず、ファイル転送ログが表示されないことがある。

[インポート/エクスポート機能関連]

- ・Export 画面で、Export 情報の選択リストに以下の不明なカテゴリが含まれている。
 - ・コマンド定義 (データ送信)
 - ・コマンド定義 (データ受信)

[その他]

以下の仮想環境での動作を確認しています。

仮想化システム	ゲスト OS	32 ビット	64 ビット
VMware vSphere 5.0	Windows Server 2008 Standard Edition SP2	—	○
	Windows Server 2008 Enterprise Edition SP2	—	○
	Windows Server 2008 R2 Standard Edition SP1	—	○
	Windows Server 2008 R2 Enterprise Edition SP1	—	○

○：確認済み —：対象外

<前提条件>

仮想環境で利用を計画する場合、次の条件をふまえて検討してください。

- ・仮想化システム、ゲスト OS の保守については、お客様の責任でそれぞれのメーカー様、ベンダー様とご契約ください。
- ・ゲスト OS は、ネットワークの接続も含め正常に動作している必要があります。
- ・ゲスト OS のリソースは、ゲスト OS の必要分の他に弊社製品の H/W 要件を満たす十分なリソースを割り当ててください。
- ・仮想環境に起因する不具合は対応できかねます。

弊社で確認した仮想化システムとゲスト OS のバージョンと違うバージョンを組み合わせた場合の動作については弊社営業にご相談ください。

以 上